

「本当の強さ・優しさ」とは！



【全校朝会】での話

あと1ヶ月で、2学期がおわります。つまり今年も終わるということです。そこで、今、校長先生が一番気になっていること、思っていることを話します。それは、「本当の優しさ」「本当の強さ」って何だろうということなのです。

そんな時、ふと思い出したのが、ジャイアンツ、ニューヨークヤンキースで大活躍したプロ野球選手、松井秀喜氏のことです。松井秀喜氏は、素晴らしいプレーヤーでもありましたが、それとともに、誰もが知る素晴らしい人（人格者）でもあります。

松井秀喜氏は、「人の悪口を絶対に言わない」紳士。その始まりは、中学時代の父の教えによるそうです。あるとき、秀喜少年が、「あいつのせいで今日の試合は負けてしまったよ…」と友だちの悪口を言っているのを聞いたお父さんが、松井氏を正座させ「人の悪口を言うような下品なことをするんじゃない。今ここで二度と人の悪口を言わないと約束しなさいと…」と強く叱ったのだそうです。それ以来、どんなに悪口がでそうなときも、父の言葉を思い出し「グッと我慢した」そうです。誰もが憧れる甲子園球場で、5打席連続敬遠を受けたときもそうでした。彼はグッと涙をこらえていましたが、決して相手投手の悪口を言うこと、つまり批判することはありませんでした。

本当の強さ、本当の優しさは、お父さんから教えて貰った「上品さ=美しい心」の中にあるんだなあとと思うようになりました。また、その奥底にある気持ちが、「人を怒す」という気高い心だと思います。

みんなの言葉に置き換えるとどんなことかなあ？



※元チームメートから挨拶を受ける松井選手！

「いいよ」「大丈夫だよ」って言葉になるでしょうか…。心のどこかに、この話が残ってくれたら嬉しいな。

「北島康介選手の金メダル」奪取に 貢献した 育脳メソッドとは・・・！

この標題にドキッとして、中身をガン見！脳には「良い習慣」と「悪い習慣」があり、「悪い習慣」をやめることが、子供の能力を伸ばす第一歩！という記述に出会いました。親が一番にやるべきことは、子供の本能を磨くこと。その本能とは「生きたい」「知りたい」「仲間になりたい」という3つ。その本能に従えば、子供はみんな仲間になって新しいことにワクワクし、いろんなことを知り頭が良くなりたいと思うのだそうです。

頭が良いというのは、成績が良いということではなく、脳に「考えるしくみ」をつくる習慣が身につくにつれ、それによって素直に自分の才能を発揮できる状態を指すということです。



では、その脳に良い「親の習慣」を紹介しましょう。

- ① 成果を気にしすぎない
「求めすぎると、防衛本能が働き、自分を守ろうとして嘘をつくようなことにも…。」
- ② 先生や家族を尊敬する
「人の話に興味をもって感動して聞くことができ、自分の気持ちも相手に伝えることができるようになる」
- ③ 肯定語を使う
「親が否定語（ダメ、無理）を使わないと、子供の思考も肯定的に。「できるよ」「やってみよう」と肯定する言葉を。」
- ④ 褒め上手になる
「子供がいるから私も育つ」と思い、良いところを褒めましょう。叱ってばかりでは、人の話を聞き流すように…。」
- ⑤ 何でも全力でやる
「損得抜きに全力投球できる子を育てるには、親も手抜きしない。子供の話も「あとで」と言わず、その時しっかりと。」

【脳神経外科医 林成之先生の著書より】

物事に遅いということはありません。もし、ヒントがあれば始めて見て下さいね。明日からと言わず今日から(*^o^*)

